

6 学年修学旅行（東京社会見学）におけるキャリア教育の視点

飯島町立飯島小学校

本年度の6 学年の東京社会見学では、「キッザニア東京」において職業体験学習を行った。

【キッザニアとは】

キッザニアは、「子ども達が楽しみながら、働くことの意味や社会の仕組みを理解するための場をつくる」というコンセプトのもと、運営している施設であり、子どもサイズの街で 100 種類の仕事の体験が可能である。多くの企業が提携しており、本格的な道具を使いながら、仕事への想い、専門的な技術を感じられる環境作りがされている。また、職業体験をすると、「キッズ」という給料をもらうことができ、銀行で預金したり、街の中で使ったりすることを通して、金銭の取扱いも学べる。

【体験の流れ】

① 事前学習

『働く』ことについて考える、保護者への職業インタビュー、アドバイザーの方に話を聞く)

- ・「働く」という言葉を聞いて、イメージすることをワークシートに記入した。

子ども達がイメージした「働く」ということ

- ・お金を得る ・家族のため ・我慢 ・大変 ・将来につながる ・忙しい ・やりがい ・面倒
- ・生活のため ・休みがなさそう ・人間関係 ・幸せ ・喜んでもらえると嬉しい ・面白い 他

⇒保護者の姿を見て、「働く」イメージを膨らませている姿があった。「楽しさ」「誰かに喜んでもらえることの嬉しさ」など、ポジティブなイメージもあるが、「疲れる」「大変」など、マイナスイメージも多い。また、イメージ出来ずにワークシートへの記入が進まない児童も多かった。

- ・保護者への職業インタビュー

⇒保護者の現在の職業への理解を深め、「働く」ことへのイメージをふくらませた子ども達。保護者の感じている仕事のやりがいを知り、「自分も親と一緒に仕事に就いてみたい。」「将来自分はどうのような仕事に就くだろう。」と意欲をもってその後の活動に臨むことができた。また、仕事の中で感じている苦勞、辛さなどもインタビューを通して知り、「家族のために頑張っていてすごい。」と感じている児童も多かった。

- ・キッザニアアドバイザーの高間成之さん陽子さんご夫妻のお話（下伊那を拠点に活動されている）

⇒キッザニアのアドバイザースタッフとして活動をされている高間さんご夫妻からキッザニアについてのお話をしていただいた。

どのような体験ができるか、効率的に体験するには、友達の行きたいところに合わせるのではなく自分のしたい体験をすることの大切さ、6 年生として体験してほしいこと等を解説していただいた。また、体験をすると成果物がもらえると教えていただき、子ども達のやる気にもつながった。

- ・興味のある職種のパビリオンを調べ、計画を立てる。

⇒興味のある職種のパビリオンを選び、体験内容、その職業について調べ学習を行った。自主学習で自分の将来就きたい職業についてどうしたらなれるかを調べる児童もいた。

② 当日の体験

- ・水曜日は「イングリッシュ・デー」と設定されており、多くのパビリオンで英語での体験となった。簡単なあいさつや、自己紹介、職業に必要な会話などの表現を自然に英語を使う。(普段の日も、英語を使ったパビリオンは存在する。)最初は、英語での活動に戸惑ったり、避けて体験をしようとする児童もいたが、体験を通して英語での活動に挑戦する姿があり、「自分にもできる」という自信につながった。⇒後日、学校の外国語活動でも、話してみようとする姿が増えてきた。
- ・自分より低年齢の体験者、外国人の体験者も多く、異年齢同士の交流、国際交流にもつながる。
- ・多くのパビリオンでの体験を通して、コミュニケーション能力の大切さを実感し、働くことの意味を考えながら、「できた!」という達成感を得られた。また、集団に入りづらい児童も、意欲をもって様々な活動に参加し、協力して作業をすることの大切さを感じることができた。
- ・キッザニアの通貨の「キッズ」を取り扱うことで、実際のお金を大切に使用したいという思いが芽生えた。また、口座に預けたり、カードを作成することで、「金融」への理解が深まった。
- ・多くの児童が積極的に様々な体験に取り組むことができた。普段、特定の友達と一緒にいつも行動している児童が、普段とは違う友達と関わったり、時には1人で行動する姿もあった。また、体験に不安を感じている友達を見かけると、声をかけ励まし合っていた。
- ・特別支援の児童への対応も手厚く、スタッフの分かりやすい説明、休憩所なども用意していただいた。児童は、時間いっぱい自分のやりたかった体験に取り組むことができた。

③ 事後学習

- ・作文や新聞作りにより、体験を振り返る
⇒修学旅行を通して、最も思い出に残ったと答える児童が多かった。
- ・「働く」ことへのイメージを問う(事前指導と同じワークシート)
⇒事前に行ったワークシートと比較すると、事後のワークシートの方が記入が増えていた。

子ども達がイメージした『働く』ということ

- ・学べる ・知る ・いろいろな人と出会える ・時間が決まっている ・難しい
- ・緊張 ・人に喜んでもらえるように工夫する ・いそがしい ・面白い ・考える
- ・責任 ・達成感がある ・伝える ・発見 ・覚える ・仲間が増える ・協力する
- ・経験 ・やりがいがある ・うれしい ・聞く ・いろいろな役割がある ・がんばる
- ・話す ・喜ばれる ・失敗もある ・チームワーク ・話し合う ・一生懸命 ・集中
- ・分からなかったことが分かるようになる ・礼儀を学ぶ ・楽しむ 他

『働く』ことへのイメージが深まった。また、今まで興味をもっていなかった分野へ関心をもつ姿もあった。

【まとめ】

当初は、キッザニアは6年生が楽しむには少し子どもっぽいのではないかと不安な気持ちがあったが、体験をしている子どもたちは、どの子も生き生きとして、取り組みたい活動に、自分から挑戦する姿があった。

今回、アドバイザーの高間さんご夫妻に学校に来ていただき、事前学習を行ったことで、6年生らしい学びのある活動となった。たくさんの職業体験を通して、将来自分のイメージが深まった修学旅行となった。